

優しい風の吹く街



ひょうご教育フェスティバル(姫路市) 11/9～10

新しい年、オリンピック・パラリンピックの年がスタートしました。子どもたちに大きな夢と希望を与える素晴らしい大会となりますよう願っています。

そして、宝塚市では、手塚治虫記念館の横に『宝塚市立文化芸術センター』がいよいよ完成します。新しくオープンする宝塚ホテルとともに、花の道周辺のシンボルとなることでしょう。

今年もしっかり頑張ります。市政や私の活動につきまして、ご意見やご助言をいただきますようよろしくお願いいたします。



来春オープン予定の宝塚市立文化芸術センター

活動報告 ～抜粋～

- 10/5 宝塚学検定セミナー
- 10/6 前川喜平・木村泰子講演会
- 10/9 姉妹都市松江市議会交流会
- 10/14 市民大運動会
- 10/25 養父市立八鹿青溪中学校研究授業
- 10/26 良元コミュニティふれあい運動会
- 10/26 市民連続講座(水道民営化問題)
- 10/27 伊丹朝鮮初級学校バザー
- 10/29 クレオマラソンコンサート
- 11/2 宝塚現代美術てん・てん
- 11/3 宝塚武道連盟演武祭
- 11/8 宝塚市技能功労者表彰式
- 11/24 消防団操法大会
- 11/24 手話言語発表会

12月議会で可決・認定した主な議案

- 2019年度一般会計補正予算
- 2018年度一般会計決算
- 災害弔慰金の支給等に関する条例一部改正
- 権利の放棄について(保証債権)
- 工事請負契約の締結(市庁舎電気設備外改修)
- 宝塚市都市計画事業基金条例の制定
- 宝塚市立小浜工房館条例を廃止
- 宝塚市農業共済条例を廃止
- 宝塚市監査委員の選任の同意
- 指定難病医療費助成制度で「軽症」とされた難病患者を同助成の対象とするよう国への意見書提出を求める請願
- 精神障がい者に対する公共交通機関の運賃割引の運用を求める決議

11/9(土)

宝塚市議会「議会報告会」(東公民館)



議員全員で議会報告会のチラシ配り(11/1)

9月議会の報告の後、参加者の皆さまからの質問や意見交換の時間を多くとりました。多岐にわたるご意見をいただき、ありがとうございました。このご意見を市政に活かせる仕組みをつくっていくことが今後の議会改革の課題です。

1, 子どもの貧困対策について

<北野>

2015年の厚生労働省の調査によると、「子どもの貧困率」は13.9%で、7人に1人が貧困状態にあるということである。

宝塚市の子どもの貧困の実態とその対策は。

<市長>

本市の相対的貧困率は7.4%となっている。宝塚市子どもの貧困対策計画を策定する予定。ひとり親家庭に対して、母子・父子自立支援相談員を増員して相談体制の充実と、生活学習支援事業などを実施。

<北野>

子ども食堂は、子どもたちの様子を見ながら、その心配事や不安を発見して、必要な支援につなげていく力を備えている。本市のサポート体制は。

<市長>

宝塚市内14カ所で子ども食堂・地域食堂が開設。市は、県の補助制度の案内や、食材提供を行う関係機関の情報提供を行っている。さらに「子どもと地域の課題を考えるラウンドテーブル」が発足し、問題解決に向けて検討している。

<北野>

本当に支援の必要な子どもに、子ども食堂を利用してもらえるように、学校園やSSWとの連携を強めるべきではないか。

<市長>

「ラウンドテーブル」紹介リーフレットを、学校園やSSWに配布し周知を図っている。子ども食堂が子どもの居場所のひとつになるように連携の強化に努める。

2, 中山桜台小学校・中山五月台小学校統合計画における教育環境整備について

<北野>

中山台地区教育適正化検討委員会と学校統合準備会の進捗状況は。

<教育長>

統合準備会で、地域や保護者に十分な情報が行き届いていないという意見が出された。今後、統合

便りの発行頻度や説明会の回数を増やし、積極的な情報提供を行い対応する。

<北野>

6月議会では「不安に思う子どもたちや保護者の声を十分に受け止めて不安を解消する取り組みが必要。アンケート調査の実施や、相談窓口の設置を進めていく。」と答弁があった。アンケート調査の実施と相談窓口の進捗状況は。

<教育長>

児童を対象としたアンケートは具体的な検討を進めている。保護者向けアンケートも協議している。

<北野>

スクールカウンセラーの配置は。

<教育長>

不安や悩みの相談に応じるスクールカウンセラーの配置を検討していく。

<北野>

中山桜台小学校の校舎などのハード面の整備の計画は。

<教育長>

普通教室の確保に向けて来年の夏季休業中に改修工事の予定。

<北野>

教室数が確保できるのか。特別支援学級プレイルームや個別指導に係る教室は必要不可欠。

<管理部長>

必須である教室は全て整備する。今後、教職員の意見も聞きながら整備に努め、教育活動に支障が生じないように取り組んでいく。

<北野>

校舎の増設は不可能なのか。

<管理部長>

校舎北側の東には増築できるスペースはあるが、エレベーターの撤去移設が必要。仮設校舎設置も現実性がない。県や国に相談するなど検討を進める。

<北野>

地域児童育成会には両校児童が全員入所できるのか。

<子ども未来部長>

120人定員の地域育成会棟を建設。全員入所可能。

<北野>

中山桜台小学校は古くて傷みが激しい。新しい学校にワクワク感や大きな希望をもてるよう大規模改修すべきではないか。

<管理部長>

既に国の交付金の限度額を活用した校舎改修を次年度に行う計画。さらに市として周期を前倒して修繕するなど、工夫し検討する。本年度中に北棟のサビの激しいベランダの柵のペンキ塗り直しは行う。

<北野>

中山台地域が望む「小中一貫教育」「地域の教育力向上」について、どう考えているか。

<教育長>

現在、小学校2校の統合に注力しているところだが一定の目処がたった段階で検討を進める。

<北野>

両校の保護者作成のアンケート項目には、統合の時期についてどう思うか?という設問がある。よい教育環境を整えてから統合してほしい、という当たり前の願いである。私は今回の学校統合を急ぐべきではないと考えているが。

<教育委員会理事>

保護者アンケート要望について作業が遅れているが大急ぎで議論して整理する。この統合は行革ではなく、第一義的には子どもの最善の教育環境をつくっていかうと策定したもの。十分話し合い、合意形成を図っていく。

<北野>

理事の言葉は重く受けとめた。そのためには必要なことをしてほしい。私の願いは、子どもたちが喜んで通う学校をつくりあげてください、という一点。この統合をよいものにするために、予算確保と人材確保をしてほしい。教育委員会と市の見解を求める。

<教育長>

「中山台地区に新しい学校をつくる」という意気込みで取り組んでいる。議員の言われた具体的なことを丁寧に教育委員会、適正化委員会、学校で、プラス面を考えながら進めている。そして、やはり教育を核とした中山台地域の特色となるような教育環境をつくっていきたいと考えている。そのために必要とあらば、県や国に働きかけ市長部局とも協議を重ね、子どもたちにとって最善の教育環境を提供するために進めていく。

<副市長>

新たな学校としてスタートするために、より望ましい教育環境と円滑な準備が必要。学校が学習のためだけでなく、生活の場であることを踏まえ、ゆとりとuringおいのある施設づくりが重要と認識している。子ども中心とした視点をもって、子どもたちの教育の向上のための予算についても、教育委員会と十分協議しながら進めていきたい。教材室の要望も受けとめている。



9月議会の一般質問で

長尾台小学校の通学路には狭隘で見通しが悪く大変危険な横断歩道があるので、安全確保のためにできる対策を求めたところ、路面に「速度落せ」と表示されました。



アピオ新橋から駅への道路横断は大変危険な状況。踏切対策とともに歩行者安全対策を急ぐべき。と求めて来ました。このたび、自動車への注意喚起のための道路赤色舗装が行われました。



10/10 議場での体験学習

宝塚市立高司小学校6年生が社会見学に来てくれました。

①まずは、議員席と当局席に分かれて「私たちの街をもっと住みよくしよう」と意見を出し合う討論会を行いました。

②次に、北野から市長も議員も市民が選ぶという二元代表制の内容や、条例、政策提言について、具体例を示し説明しました。

また、身近な児童館やバリアフリーのことを知り、困りごとの相談もできる「子どもの権利サポート委員会」「ありのままに自分らしく生きられるまち宝塚」についても話をしました。



11/6 ひょうごヒューマンライツ議員の会

ひょうごヒューマンライツ議員の会は、政党や党派を超えて、県内の各議会から人権を大切にしようとする議員が集まってつくられました。現在、県議会、市議会、町議会の議員101人で構成され、心合わせして人権課題に向き合っています。私は副会長に就任しました。全ての人の人権を守るため頑張ります。



11/9~10 ひょうご教育フェスティバル (姫路市)



水岡俊一参議院議員と秘書の安田真理さんと(全体会)

ジェンダー平等教育分科会。学校以外の地域リポートもあり、2日間の活発な討論により多くを学ぶことができました。



風のこころ

幼児教育・保育の無償化が始まったが、全員入所とはならず、保育所に入れないために仕事もできないという負の連鎖が起きている。早急な待機児童解消が求められている。そのためには、保育士の待遇改善も必要である。また、ブラジル人学校や朝鮮学校など外国人学校の幼稚園を、無償化除外としたこの制度の見直しも強く求めていきたい。「すべての幼児に教育・保育の権利を！」